

「倫理的購入・CSR調達ガイドライン」研究会

ESGテーマ銘柄とエシカル投資の現在

2013年3月1日

株式会社 グッドバンカー

シニアSRIアナリスト 倉橋 麻生



目次

- キートレンド 2
- 東京証券取引所 -ESGテーマ銘柄- 3
- ESGのスコアリング基準等 4
- 海外でのSRI -歴史的背景- 5
- SRIと宗教 6-7
- 日本における動向 8
- まとめ 9
- 会社概要 10
- 設立趣意書 11

キートレンド



SRI (Socially Responsible Investment)

社会的責任投資：従来の財務分析による投資基準に加え、社会・倫理・環境といった非財務的な要素を投資の判断材料とする投資行動。

PRI (Principles for Responsible Investment)

責任投資原則：2006年4月に国連環境計画・金融イニシアチブが発表した、投資に際していわゆるESG (Environmental:環境、Social:社会、Governance:企業統治)を考慮するよう求める原則。これに同意・署名した国内外の機関投資家は1071*にのぼり、その運用資産は32兆ドル超と言われている。(*2012年4月現在)

TBLI (Triple Bottom Line Investing)

トリプルボトムライン投資：経営における財務の健全性、社会の問題への目配り、環境問題への取り組みという三つの側面が基本にあって、はじめて企業の持続的な成長があり、また投資としても有効であるという考え方。

東京証券取引所 -ESGテーマ銘柄-



日本経済応援プロジェクト

「+ YOU(プラス・ユー) ~ 一人ひとりがニッポン経済」

- 2012年7月、東京証券取引所グループがテーマ銘柄公表
- 第1回: 経営の持続的な成長が見込まれる指標 「ESG」
 - 東証とグッドバンカーが東証市場第一部銘柄を対象に、TOPIX17業種毎に銘柄選定を実施
- 第2回: 将来的に事業が成長していくポテンシャル 「特許価値」
 - 工藤一郎国際特許事務所の開発した“YK値” (特許価値評価指標) をもとに、東証市場第二部・マザーズ企業を対象に、「化学」、「機械」、「情報・通信業」、「食料品」、「電気機器」の業種毎に銘柄選定を実施
- 第3回: 女性の活躍で企業を視る 「なでしこ銘柄」
 - 経済産業省との共同企画により、東証一部上場企業を対象に、TOPIX17業種毎に銘柄選定を実施。

ESGのスコアリング基準等

E:環境

- 業種別に、産業特性に合わせた評価基準を策定
- 環境経営、環境戦略、製造工程、製品配慮等の項目で、環境負荷の重要度・リスク度を反映した評価

S:社会

- 全業種統一の評価基準による評価
- 従業員施策、社会貢献活動、顧客・調達先への対応など
- 取り組まれている社会貢献活動が社会的な価値を創造・維持し、組織的・継続的な活動が実施されていること。
- 同時に、社会貢献活動による企業価値への貢献を効果的・効率的に実現するための戦略性を有していること。

G:ガバナンス

- 全業種統一の評価基準による評価
- 企業を取り巻くリスク要因を認識、常に適切な対応ができる仕組みづくりを行っていること。
- ステークホルダー等とのコミュニケーションを通じて社会の声をとらえながら、経営戦略等の社内外への適切な情報発信、社内での経営意思の徹底、外部へのアカウンタビリティなど。



海外でのSRI 歴史的背景



- ・ 1920年代

SRIの発祥は、米国で教会の基金を酒、タバコ、ギャンブル産業へ投資することがキリスト教倫理に反すると、忌避したことに始まると言われている。

- ・ 1960年代～80年代

ベトナム戦争に反対して軍需産業への投資をボイコットし、南アフリカのアパルトヘイトをやめさせるため南アへの投資から利益を上げている企業の株式を売却する運動などへ発展。

- ・ 1985年

1985年の大キャンペーンのため、IBM、GMなどは南アでのビジネスを大幅に縮小し、南ア白人政権がANC(アフリカ民族会議)との対話路線に踏み出すきっかけに。

この時はニューヨーク州、カリフォルニア州など全米160の自治体の年金基金が同調。労働組合、生活協同組合、生命保険会社、財団、公的年金基金など、その性格として道義的側面を重要視する団体のほか、女性と個人の投資家が多いのが特徴。

- ・ 1990年代

地球環境問題が危機的状況にあるとの共通認識のもとで、SRI型の金融商品である「グリーンファンド(エコファンド)」が欧米で誕生。

- ・ 2000年代

環境からより広範な企業責任(CR)を問うファンド

SRIインデックスファンド

宗教団体(モスLEM、カトリック、メソジスト)の宗教的倫理ファンド

など、多様なSRIファンドの興盛。

SRIと宗教



- ・キリスト教倫理ファンド
- ・カトリック修道会ファンド
- ・イスラム金融
イスラム法(シャリア)にのっとった投資
- ・仏教
西洋仏教教団の友、ダーナーパートナーシップ預金

- ・酒、タバコ、ギャンブル、ポルノ産業、軍需産業への投資を忌避
- ・森林、環境関連、人権配慮など社会的意義のある投資

SRIを巡る国際動向



1980年代 イギリスで企業評価に倫理性を付加した「倫理的投資信託」(Ethical Fund)や環境評価を付加した「グリーンファンド」などが出現。

1980年 アメリカ・フィラデルフィアに拠点を置くフランシスコ会の修道女たちのグループが社会的責任に関する委員会を組織し、投資先企業への働きかけを開始。

1983年 フランス初のSRI商品がカトリック修道女によって開発される。

2001年2月 オーストラリア・ブリスベーンにて倫理的投資会議開催。カトリック教会等が参加。

2001年6月 イギリス、SRIインデックス・ファンド(FTSE4good)立ち上げへ。

環境、倫理、社会的責任の面で優れた企業が銘柄対象。

2005年11月 イタリアのカトリック修道会、SRIファンドをルクセンブルグに設定。

2007年1月 フランスサステナビリティ口座(非課税)スタート。

2011年7月 南アフリカがイギリスに続いて責任投資法を発表。

欧州では、公的年金基金がSRIのメインプレーヤー。

運用方針もしっかり定めているが、その投資行動は、NGOなどの団体から厳しく見られている。

日本における動向

- 金融機関はUNEP FI (国連環境計画金融イニシアチブ)、PRI (責任投資原則)などの国際イニシアチブへの署名。
- 企業は、赤道原則、グローバルコンパクトなどに署名し、事業活動を行う上での原則を策定。
- 2010年4月 労働金庫連合会が「労金連のSRI (社会的責任投資)原則」策定。
- 2010年12月 連合が「ワーカーズ・キャピタル責任投資ガイドライン」策定。
- 2011年11月 21世紀金融行動原則策定。
- 2012年1月 全国市町村職員共済組合連合会が運用委託先を募集する際、PRIへの署名を条件づけ。

まとめ

- 宗教団体をはじめ、機関投資家がそれぞれの投資基準を策定
- 金融行動のイニシアチブの制定
- 各団体がその投資行動をウォッチ



倫理的問題を抱えた事業活動が
企業にとってのリスクとなる



倫理的側面における企業行動の変革

トリオドス銀行(オランダ)

…「あなたが信じているもののために
あなたのお金が役に立つのです。」

株式会社グッドバンカー 設立趣意書



1990年に端を発するバブル崩壊後、株式市場の大暴落、株価の長期低迷、金融業界の不良債権問題、変わらぬ企業体質による様々な証券不祥事など、国内外を問わず日本の金融市場を見る目は非常に厳しい。「フォーブス」日本版1997年5月号では、役に立たない産業のトップに金融がランクされている。また、毎年世界の政財界のリーダーを集めた「ダボス会議」を主催するスイスの民間調査機関、国際経営開発研究所のアンケート結果によると、産業発展に貢献しているかどうかを聞いた「金融市場の洗練度」では、日本は香港、シンガポールだけでなく、マレーシア、タイ、インドにも劣るとされている（日本経済新聞1997年1月27日付記事）。

このような状況に対して、金融業界の中から反論が無いように見えるのはどういう事だろうか。もし、上記の見方が真実だとすれば、現在の日本で金融業の産業としての存在意義は、どこにあるのだろうか。誇りを持って、金融業界で働けるのか。

こうした危機感を持ちながら金融業界で働く女性有志で、勉強会を続けてきた。そして、あらゆる経済活動の本来の目的が、人間の生活の充実と幸福の追求である時、金融もまたその理想を高く掲げ社会全体の進歩と発展に寄与するような金融商品とサービスを提供していくことで、新しい顧客を開拓し、新しい市場を創造し、現在の金融業界の閉塞状態を切り開くことができる、という結論に達した。

このような新しい商品として、SRI（Socially Responsible Investment - 社会的責任投資）というコンセプトを提案し、またビッグバン後の金融市場の変化に対応する多様な商品やサービスの企画・提供の二つを事業の柱として、ここに女性有志による金融サービス会社「グッドバンカー」を設立する決意をした。

新しい葡萄酒を 新しい皮袋に…。

1998年7月14日 10

株式会社グッドバンカー (GB) 概要

- 1998年7月設立 社会的責任投資(SRI)調査専門の独立系投資顧問会社
 - 代表取締役社長 筑紫みずえ
 - 社歴:
 - 1999年8月:アジアおよび日本初のSRI型金融商品「日興エコファンド」を開発
 - 日興エコファンドは2001年度グッドデザイン賞を受賞
 - 日興エコファンドの成功を見て他社も追随し、日本のSRI市場が創設された
 - 1999年10月:興銀第一ライフ・アセットマネジメントのエコ・ファンド向け調査開始
 - 2000年12月:東京都教職員互助会向けSRIファンドの調査開始
 - 日本初の機関投資家向けオーダーメイド型SRIファンド
 - 環境評価に加えて社会性(従業員処遇、社内外教育、社会貢献活動等)も評価
 - 2001年1月:スイス第3位のユニバーサルバンクであるチューリッヒ州立銀行の環境・社会問題リサーチチームと提携し、日本企業の調査、及び、アナリストの交換研修をスタート
 - 2003年1月:英国大手SRI調査機関EIRIS社より日本企業調査を受託(~2005年1月)
 - 環境、社会性、企業統治、人権問題など広範囲なSRI調査
 - 2003年2月:東京都教職員互助会より年金SRIファンド受託
 - 2004年1月:オランダSNSアセットマネジメント社より同社のSRIグローバルファンドの日本企業調査を受託
 - オランダ第6位の金融グループSNS Reaalの運用会社で、同国でのSRI運用のパイオニア
 - オランダ最大手のSRI専門銀行ASN Bankをはじめ、公的年金等の多数の機関投資家を顧客に持つ
 - 2004年12月:三菱UFJ投信との共同開発による三菱UFJ SRIファンド「ファミリー・フレンドリー」設定
 - 三菱UFJ SRIファンド「ファミリー・フレンドリー」は、2005年度グッドデザイン賞を受賞
 - 2006年4月:(株)東京証券取引所よりCSRを考慮したカスタム指数の開発における調査を受託
 - 2006年6月:三菱UFJ信託銀行より年金向けSRIファンドの調査を受託
 - 2007年7月:EU委員会より環境金融に関する調査を受託
 - 2007年11月:三菱UFJ SRIファンド「ファミリー・フレンドリー」が「第1回ワーク・ライフ・バランス大賞」優秀賞を受賞
 - 2008年5月:ユネスコパリ本部にてユネスコとのパートナーシップファンドについて提案
 - 2009年4月:ユネスコ・ボンでのESD世界会議にて、ユネスコとのパートナーシップファンドのプレゼンテーションを実施
 - 2010年3月:デンマーク最大手の運用会社Sparinvest社よりコンサルティング業務を受託
 - 2010年6月:労働金庫連合会よりCSR関連の企業情報提供業務を受託
 - 2011年11月:ドイツ フォンブラウン財団より、日本株SRI調査業務を受託
 - 2012年6月:(株)東京証券取引所グループより、ESGテーマ銘柄の情報提供業務を受託
- 🕒 調査対象 : 日本企業1,000社 調査範囲 : 環境、社会性、企業統治などを含むCSR分野全般